

朝河貫一研究会 ニュース v NEWSLETTER from ASAKAWA
RESEARCH COMMITTEE No.15, December 1993.

事務局: 〒169-50 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学社会科学研究所
代表・峰島旭雄 TEL03-3203-4141 内線 71-5253

生誕120周年・論集出版記念

シンポジウムが開かれました

1993年11月15日(月) 午後4時から8時まで、東京六本木の国際文化会館において「朝河貫一生誕120周年・『朝河貫一の世界』出版記念シンポジウムが内外の52名の出席者を得て、開かれました。

まず峰島旭雄研究会代表の挨拶に続いて、二本松市助役国分富夫氏(市長代理)が来賓祝辞を述べ、ついで二本松市教育委員会教育長市川義氏が同市における顕彰事業について紹介されました。1 ふるさと村の「先人記念館」に朝河貫一コーナーをもうけたこと、211月13日、金子英生氏(イェール大学東亜図書館長)、井出孫六氏(研究会会員、作家)の講演会を行なったこと、3 副読本『朝河貫一: 一を以て之を貫く』(B5判、25頁)を同市中学校の先生方が編集したこと、などが主な内容でした。

もう一人の来賓は早稲田大学総長小山宙丸教授であり、スピーチの主題は「朝河貫一と津田左右吉」でした。『朝河貫一の世界』冒頭の序文と類似のお話なので、同序文を熟読していただければ、幸いです。

第16回研究会 予定

ビデオ鑑賞: 「遙かなる光芒・続編」(福島中央テレビ製作)

報告者: 峰島 旭雄 会員

テーマ: 『論集』を読んで

日時: 1994年1月22日(土) 午後2~4時

場所: 早大社研所長室

第17回研究会 予定

報告者: 原 輝史 会員

テーマ: 二人の比較史家

日時: 1994年3月26日(土) 午後2~4時

場所: 早大社研所長室

祝電は3人の方からいただきました。第1は、前駐日アメリカ大使館公使ブリアからのもので、これは米ダートマス大学の在日同窓会「東京ダートマスクラブの会長T・F・シーモア氏(コンバース社極東総支配人)によって代読されました(3頁のコピーを参照)。この際に、シーモア氏は、東京ダートマスクラブが第2回朝河賞一賞を明石康UNTAC(国連カンボジア暫定統治機構)代表に贈ったことを紹介されました。

第2は『朝河賞一書簡集』刊行に際して援助をいただいた福島県知事佐藤栄佐久氏のもので、第3は『書簡集』および『論集』出版に際してお世話になった永井道雄氏(国際文化会館理事長)からいただきました(以上、二つは4頁のコピー参照)。

その後、中村尚美氏が司会して、5人の報告者から話題提供のスピーチが行なわれました。

1)人間朝河賞の魅力.....井出 孫六(作家)

2)朝河とダートマス大学.....齋藤 襄治(ダートマス大学客員教授)

3)朝河とイエール大学.....金子 英生(イエール大学東亜図書館長)4)青年朝河のアメリカ便り.....増井由紀美(津田塾大学、千葉大学講師)5)朝河の愛と人生.....石川 衛三(宇都宮大学名誉教授)

その後、若干の討論が行なわれ、ついで懇親パーティ(6時半～8時)が行なわれました。シンポジウムの記録は『朝河賞一』(仮題)という本として北樹出版から94年上期中に出版される予定です(『幻の大統領親書』と同じ形を想定しています)。

なお当日の出席者は以下の通りでした。

五十嵐卓、石川衛三、石本正三、市川義、井出孫六、上村弘和、鶴木奎治郎、遠藤海蔵、オーシロ・ジョージ、大畑篤四郎、笠井康弘、梶田明宏、加藤幹雄、金井圓、金子英生、菅家信一、日下部哲夫、国分富夫、小西晋、小山宙丸、齋藤襄治、齋藤信夫(代理)、相楽勉、佐藤昭、佐藤貞勝、沢田悌、茂田宏、鈴木吉郎、須田清久、高橋光夫、土屋七郎、登坂治彦、T・シーモア、仲村哲郎、中村尚美、中森強、並木謙、榎原孝俊、福留久大、舟川敏夫、星式典、増井由紀美、松本洋、三家外史、峰島旭雄、柳沼八郎、矢吹晋、山岡道男、山下律子、雪田江美、渡辺元蔵、渡辺喬一。

第18回研究会 予定

報告者: 石川衛三 会員

テーマ: ベラさんのこと

日時: 1994年5月(日時未定) 会場: 早大社研所長室

故中田勉氏ご遺族(中田親子夫人)から『入来文書』が研究会に寄贈されました。これは故人が苦勞して求められたものです。ここに改めて故人のご冥福を祈ります。

福島県教育委員会主催「国際理解・国際交流朝河貫一賞」講評

今年は朝河貫一博士の生誕120周年にあたりますので、博士にゆかりのある各地でいくつかの記念行事が行なわれました。まず安積高校ではシンポジウムが行なわれ(9月13日)、ついで二本松市で講演会があり(11月13日)、さらに東京の国際文化会館でもシンポジウムが行なわれました(11月15日)。在京の研究者を中心とした朝河研究会では『朝河貫一の世界』と題した論集を出版し(早稲田大学出版部刊)、二本松市では市内の中学校の先生方が副読本『朝河貫一:一を以て之を貫く』(教育委員会刊)を編集しました。これらの顕彰事業を通じて、朝河貫一の生き方と学問が広く知られることは、喜ばしいかぎりです。今年は朝河貫一賞の3回目の審査をしましたが、内容や形式の点で朝河賞のイメージが固まってきたように思います。今後はマンネリ化に注意したいものです。現実の国際交流は私たちの日常生活のなかで日一日と拡大しており、それにともなって国際間の摩擦や事件も次々に起こっています。そのような事情を反映して、今年はテーマや話題が従来になく多様化しています。中学校、高等学校を通じて、テーマが広がり、深まったことが今年の大きな特徴です。

文章や論理構成も向上してきました。これはもちろん進歩ですが、審査員の先生方はきびしい目で皆さんの論文を読んでいます。文章はたしかに上手だが、筆者の考え方なのか、親の考え方なのか、それとも指導して下さった先生方の考え方なのか、どうもはっきりしないというコメントもありました。

そうした角度からして、中学生らしい感受性で書いたもの、高校生らしい論理の組み立て方に基づくものが選ばれています。たとえば中学校の部の塩見愛作君のものは、いかにも中学一年生らしい素直な目で国際交流のひとつの現実を見つめ、大人の世界の虚飾をすどく衝きました。これは「いわゆる優等生の作文」(これはカッコつきの「優等生」ですから、悪い意味です)に食傷気味の審査員からあたかも清涼剤のようだ、と拍手喝采を受けました。

いうまでもないことですが、自分が感動せず、驚いていない事柄について、感動したかのごとく書いても、読者を感動させることはできませんね。文章を書くときには、誰に何を訴えたいのか、考えぬいて書くと、説得力が生まれてきます。推敲を重ねて、誤字、脱字や当て字がないように、何度も読み直すことも大切でしょう。中学校の部の審査においては、まず計六篇を選び、そこから最優秀賞として畑中亜希子さんのもの

のを選びました。いずれもそれぞれの特徴があり、甲乙つけがたいところがあり、審査会としては大いに悩まされた結果、このような判定に落ち着きました。

高等学校の部もまず六篇を選び、そのなかから本宮幸治君のものを最優秀賞に選びました。審査の過程では、氏名も学校名も伏せて投票しますので、後から分かったのですが、本宮君は昨年度に優秀賞を得ています。その後の「精進」(しょうじん)によって、ついにこの栄冠を勝ち得たわけであり、その持続的な努力に敬意を表したいと思えます。高等学校の部でもう一つの特徴は、初めてグループによる論文が選ばれました。その内容は、不幸な戦争当時の「負の国際交流」の事実を正しく知ることによって真の国際交流のための心の糧(かて)とすることを論じたもので、これは集団の作品という点でも内容の点でも、従来みられなかったものであり、そこが評価されました。

さて朝河の学んだダートマス大学の在日同窓会「東京ダートマスクラブ」は、第2回の朝河賞をカンボジアで活躍した明石康代表に授与しました。この賞は国際間の相互理解の促進に貢献した人に贈られます。

今日ここで受賞された皆さんがこれを契機として、国際理解に貢献できる人材、すなわち第二、第三の「明石代表」に成長されんことを祈って講評に代えさせていただきます。(横浜市立大学教授 矢吹 晋)

編集後記

・生誕記念および論集出版記念シンポジウムを終えて、ホッとしたところ です。これを契機として、今後の研究会の運営方向などを改めてじっくり 考えてみたいものです。・残された課題の一つは会計報告ですが、これは 売上げ状況などの整理が済んだ時点で担当者から報告してもらいます。・ もう一つの課題は、誤記、誤植の訂正です。『通信』の前号で掲載し、その後、若干の再訂正を加えたものをシンポジウム当日配付しました。しかし、おそらくはまだ見つかるのではないかと思います。そこで、来年1月 の研究会当日まで訂正表(活版印刷)の作成を延期し、この間に、遺漏なきを期したいと考えております。・各位におかれてはご自分の頁だけでなく、他人の論文にも目を通して、お気づきの箇所はドシドシご指摘下さい。「訂正表の訂正」はやりたくないですね。